

## 令和3年度前期 学群教育改善計画

<b>学 群 名</b>	基盤教育群
<b>学 群 長 名</b>	平岡 善浩

1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	アフターコロナの状況下、教室の定員数変更など、対面講義前提での講義環境が変化したことによる、講義方法の対応が必要となった。
①	理由	科目やクラスによって想定していた履修者数からの増減がみられ、それに対応した教室の再配置、教室設備のばらつきが生じ、同じ科目でもクラスによって柔軟な講義運営が必要となった。また、3階4階に新しく整備された教室を運用し始めたことによって、必要な設備を検討しなければならない。
②	課題	講堂での講義において、ステージ設備や客席の構造上、講義スタイル、試験方法の制約が生じた。
②	理由	板書が出来ない、筆記試験が出来ない、学生とのオーラルコミュニケーションや、ペーパー配布・回収が難しいなど、従来の講義手法から変更を余儀なくされ、オンラインツールとの併用により担当教員が対応されている。
③	課題	対面講義は開始されたが、ディスカッションやグループワーク、学生の発話、接触を伴う講義の実施の判断が難しくなっている。
③	理由	教室の制約（机の配置や定員減など）、会話・接触・道具の共有など感染の恐れのある行動の制限、などがあり、オンラインツールを併用するなど工夫されているが、教員個人の判断では難しい場合もある。

1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	講義一演習、大人数一少人数といった軸で、科目のグルーピングを行い、新カリ時間割と照合しながら、それに対応する教室群を設定する。科目担当教員からの意見徴収をもとに各教室群で必要な設備を整理し、キャンパス整備委員会等に要望を提出する。
②	講堂での講義設備のニーズ、使い勝手について意見を徴収し、学務課および財務課と相談。改善が必要なところについて要望を提出する。
③	科目によっては事前にオンラインでのグループワークを課しておき、対面の機会では内容を絞って効率的効果的にディスカッションを行うなどの工夫が必要。また、現在科目特性や状況に応じて担当教員の個別判断となっているが、グループワークなど学生の発話を伴う講義演習のガイドラインの検討が必要。

2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ① 語学や自然科学、社会科学の講義において、題材を身近で現代的なトピックで説明したり、音楽やドラマといったエンターテインメントを扱ったりして、学生の興味を引き、主体的な学びを促した例があった。
- ② 対面とオンラインの特性を相補的に活かした反転授業の試みや、動画リンクやデータ配布などによる講義資料の充実、講義内容に合致した独自のオンラインツールの活用など、ハイブリッド講義の良い取り組みが見られた。

2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

各教員からの授業改善計画からの情報に基づき、

- ① 講義内で取り上げたトピックやその目的、学生の反応、使用したメディアなど取り組み事例を収集し情報共有する。
- ② 反転授業の試みや、講義資料の充実、独自のオンラインツールの使用例などの取り組み事例を収集し情報共有する。

## 令和3年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	看護学群
学 群 長 名	高橋 和子

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	週当たりの授業外の学習（課題レポート・予習・復習など）の時間が、科目によって差があり、授業外の学習時間が平均より短い場合でも、到達目標に対する到達度（自己評価）は、平均値よりも高いものがほとんどである。
①	理 由	授業外の学習時間が短く、学修到達度の自己評価も低い場合もあるが、授業外の学習時間が短く、学修の到達度の自己評価は高い科目のほうが多い現状である。授業での学習や、提示された課題の学習に留まり、主体的な学修習慣が身につけていない学生も少なからずいることが推察される。
②	課 題	コロナ禍が続く中、感染対策に留意しながら、講義室を複数使用し、昨年度は困難であったグループワークを取り入れた授業を行った科目が多く見られた。一方で、複数の講義室の使用により進行管理が難しかったり、講堂での授業となったり、通常とは異なる授業環境で、学生の集中力が低下しないよう、工夫しながら授業を行った科目もある。
②	理 由	授業にグループワークを組み込んでいる科目が多く、感染対策が必要な状況では、引き続き、講義室調整が必要となる。教員数の少ない科目や、講堂での授業実施は、学修活動が効果的に行われるよう授業運営上の工夫が必要となる。
③	課 題	学生が、集中力が続かない、体力が落ちているなどの理由や、学生の集中力を高めて授業を展開するために、授業中に短時間の休憩を取り入れている科目が複数見られている。
③	理 由	90分通しての授業は、学生の集中力が続かない状況があり、授業への集中力が維持できるよう、授業展開での工夫が必要になってきている。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週当たりの授業外の学習の時間が長い科目は、課題や小テスト等のある科目であることが想定される。「知識や技術、理論の習得に役立った、知的関心が喚起された」の問いでは、値が高くても、学習時間は短い科目もあり、意欲を持って主体的に学習できるよう、関心を持ったことをより深めるような自己学習の促しや、探求型の学習の機会の導入など検討する。また、学生の主体的学修の取り組みを図る方策を検討するFD等を行う。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策を継続しながらも、授業計画に基づき、必要なグループワークやアクティブラーニングが実施できるよう、関係部署と連携しながら講義室調整を行う。</li> <li>・グループワークや演習を実施する際の学群内のサポート体制を強化する。</li> <li>・講義の際に、講堂を使用する場合は、支障の少ない科目を選定する。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が集中できる講義展開の方法等について、会議やFD等で、先駆けて取り組んでいる教員の事例を共有や各自で授業の展開方法の見直しを行う。他の教員の講義視聴なども検討する。</li> </ul>

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

・講義は講義室で一斉授業を行い、技術演習はナースングラボ1で3クラス開講とした。資料はすべて各授業開始前にMoodleにアップロードし、学生が授業内容を予習してから授業に臨めるように配布した。技術試験項目については、動画と評価項目を事前に提示し、評価項目を理解したうえで繰り返し自己学習できるようにした。ナースングラボの自己学習の予約はTeamsを活用し、感染予防対策としてナースングラボ1が密集しないように調整した。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・教授会や教員会議等で紹介し、情報を共有する。
- ・看護学群のFD等を通して、学生の主体的な学修につながる支援方法を検討する。
- ・学修環境や講義室等の活用方法の整備を図ることで、効果的な授業展開につなげる。

## 令和3年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	事業構想学群
学 群 長 名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	コロナ禍以前の対面授業の運用とは異なり、ウェブサービスや遠隔会議システムを活用して資料の配布などがデジタル化され、対面でありながらも情報化技術を活用する教育体系の確立が急務となった。
①	理 由	感染症者の減少傾向に伴い、対面授業での実施が原則となり、前年度に課題となっていた授業の理解度、達成度の充足に向けた遠隔授業実施による問題の解決に向けた多様な取り組みが求められた。
②	課 題	すでに活用されていた遠隔授業のシステムを併用し、対面での授業でも教材の提供や反復学習のための動画活用など、対面重視の中でも教授法の開発、発展についてさまざまな取り組みが必要となった。
②	理 由	学生を教室に集めて講義する方法においても、授業そのもののコンテンツ化（動画の記録と配信）も可能となり、感染症の危険が残された中での在宅での受講や、個人の理解不足をオンデマンドで補うなどの機会が増えることとなった。
③	課 題	演習・実習などで困難を感じた遠隔授業が対面授業に転換できるようになり、受講生の不満や不安を解消するための方法の検討が今期の重要な課題となっていた。
③	理 由	遠隔会議システムを使った演習・実習はこれまで相互の意思疎通や課題内容の伝達に難があったが、対面再開を機に従来の授業運営をさらに高度化する授業手法の獲得が求められるようになった。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	従来であれば、教員の PC から教室のプロジェクターにて画面を投影し、印刷物の資料を配布するような形での講義が通常であったが、専門の講義系授業においては、講義室での多数の受講生に向けての講義を行うとともに、手元資料をデータ化して遠隔会議システムで共有したり、これまで運用していた Web サービスを介したレポート課題の提出、アンケートフォームの配信などを駆使したりと、受講内容をもれなく受講生が把握することができるような工夫が多く見られた。
②	感染症に対する学生の警戒心が完全に拭えない状況の中で、対面授業の実施を前提にしつつも、登校や大学での受講が困難な学生たちにも学びの機会を適切と提供するため、講義の内容を録画したものを保存、配信するなどのオルタナティブな学びの状況も構築することで、結果的に反復学習の機会を提供することにも繋がった。本年度後半においては感染力の強いオミクロン株による陽性者の急激な増加の中、自宅待機を強いられるような状況が拡大し、通学による受講機会を逃す可能性が高まったとしても、これに対処する手法を備えておくことも可能であると考えられる。
③	対面での議論等による学習効果の向上については従前より高く評価する場面もあったが、全面的な遠隔授業の期間には、それを痛感する場面も少なくなかった。対面を再開する中で、直接顔を合わせて行う意見交換や、学習対象を直接観察しつつ学びを深めていくような課題、教材を扱う授業においては、これまで実践してきた徹底的な感染予防対策を前提として、その教育効果を十分に獲得できる学習環境を整えることもできている。他方、遠隔会議システムを並行して用いることで、受講生個人の授業内容（資料や課題作品）に対するアクセシビリティを高めることも可能となった。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

生活環境デザイン演習 II（価値創造デザイン学類生活環境デザインコース 3 年演習科目）の担当教員からのコメント：「全体で行うプレゼンテーションと講評」では、対面と Teams による配信を同時に行い、全履修生が自身の手元で、他の学生の提案内容や指導内容などを視聴することができた。今後は、ICT を活用して発表や他者の指導の様子などを 閲覧する機会を増やすことで、より多くの情報を得られるような工夫を行いたい。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

学群、学類におけるそれぞれの科目の充実と高度化において、新たな技術革新のもとで講義や演習の発展を促進するとともに、従前より丁寧に内容の充実を重ねてきたフィールドワークや制作実習等の専門教育における重要性の評価を行い、他分野多領域の融合も含めた科目等の充実を進めていきたい。

## 令和3年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：事前・事後学修、特に事後学修のための課題等の提示等が行き届かずに学修時間が十分に取れていない科目が見受けられた。
	理由	例年、直接学生へ予習復習の必要性の説明や事前調査、事後課題等の提示は実施しているが、今期は通学バス等の関係で曜日によっては遠隔授業、或いはハイブリッド授業も混在したことから、十分に連絡等が行き届いていないことが原因と推察される。また、学年によっては実験・実習のレポート課題が多く、他の科目の予習・復習に時間が割けないことも原因とも考えられる。
②	課題	継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）の履修者数が多い授業では、理解度が低い傾向にある。
	理由	新型コロナウイルス感染の影響で、学生間の距離を保つため、講義科目ではスペースの広いメモリアルホールや大講義室等を使用した。このことから後方から板書の字やスクリーンが見えにくいこと、声が聞き取りにくいこと（マイクに雑音が入る）などの支障が出た可能性が高い。加えて、グループワークなどの取り組みもできないことも一因だと推察される。また実験・実習科目についても、履修者を2グループに分けて、実施曜日を変えて週2回行うことで対応したが、TAなどの十分確保できないことや操作等に目が行き届かないこともあり、理解度が低くなっている可能性が考えられる。また、学生同士が集まったの勉強会（ピアサポート）なども実施できなかったことも影響している可能性がある。
③	課題	入学初年度の基礎科目から専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）への接続性・連続性がない。
	理由	現行カリキュラムでは、1年次は基盤教育が中心であり、2年次以降に開講される専門基礎科目や専門科目が実験・実習も含めて同時並行的に開講される等が原因であると考えられる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	これまで講義の際、課題、小レポート、小テスト、グループワーク等を提示し、事前・事後学修を促進する取り組みを行ってきているが、十分に成果が表れてはいない。新型コロナウイルス感染の影響がなければ、学生同士がピアサポート的に教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びも期待できるが、現段階では難しい。とは言え、本取り組みは必要があることから、教員と学生間の情報共有を Zoom や Teams 等で密に実施することを含め事前・事後学修を促すよう3月の教員会議・教授会、学類会議を通じてお願いする。また2年次に開講が集中している実験・実習科目については、新カリキュラム改編でR4年度から正常化が図られる見込みである。
②	双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD（Learning Through Discussion）、ピアサポートの実施・活用を促したいところではあるが、新型コロナウイルス感染の影響で容易ではない。このことから、学修支援システムをフルに活用し、コメントカードやレポート、事前学修（簡単な演習）のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上に努めるよう、3月の教員会議・教授会、学類会議を通じてお願いする。
③	本課題については、令和4年度からの新カリキュラムで1年次から専門基礎科目や専門科目（実験・実習も含む）の導入が図られ改善する見込みである。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

授業実施の良い事例・改善例としては、「公務員への志願者も近年多くなっており、幅広く公務員試験対策にも繋がるような授業へ工夫していきたい」、「毎回の授業の中でミニテストを実施しながら知識の定着を図る」、「理論と実践をいったり来たりしながら学ぶと共に、分析手法の理論に加えて、実社会でどのようにデータが使われているか分かるよう工夫していきたい」などであった。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

まずは、3月の教員会議・教授会、学類会議を通じて事例を紹介し情報の共有化を図る。さらに、より良い授業の在り方について学群や学類のFD等を企画・実施し、グループ討議なども交えてボトムアップを図っていく予定である。